

ホワイエ *Foyer* イエ

New Union of Architects & Engineers

Tokyo 612

2023 4



2023年4月1日（毎月1日発行） 定価200円 通巻612号第53巻第4号 発行/新建築家技術者集団東京支部幹事会
発行人/柳澤泰博 〒162-0811 東京都新宿区水道町2-8長島ビル2F tel.03-3260-9810 fax.9811 郵便振替東京3-19465
URL <http://www.ne.jp/asahi/shinken/tokyo/tokyo/tokyo> E-mail shinken-tokyo@group.email.ne.jp

今月の表紙

「射水にて」 いみず

提供者 柳澤泰博

先日富山に出向く仕事の帰りに、まちづくり研究所の丸山豊くんがまちづくり整備事業を行っている「射水」をたずねました。なかなか雰囲気のあるカフェレストランが街角にありました。住居移転など、まちづくり整備事業はまだ続くようです。

- 03 第二回幹事会記録 柳澤泰博
- 04 地球温暖化を考える 第34回 渡辺政利
- 06 自然と正面から向き合ってみませんか
－環境異変を回避するために－ 第8回 金田正夫
- 08 新連載 日本建築概観 丸谷博男
「和風から現代疑洋風、その先は？」
- 10 アジアンニュース T N

Event Information

◎は新建主催行事 ◆は会員及び交流団体の行事

- ◎4/ 6 (木) 19:00～ 「藤本講座」 全国政策委員会第六回事前世話役会議 @ZOOM
- ◎4/11 (火) 19:00～ 第3回支部幹事会
- ◎4/15 (土) 09:30～ 全国幹事会 @Zoom
- ◎4/21 (金) 12:30～ ホワイエ編集会議 @Zoom
- ◎5/ 9 (火) 19:00～ 第4回支部幹事会
- ◆4/ 6 (木) 18:30～ 第329回 一木会
「脱サラ4年目の僕が『住むまち』から必要とされるために やってきたこと！」
えしま 裕二 氏 (【社会貢献事業家】・起業家 ? 整体師・住宅建築コーディネーター)
- ◆4/27 (木) 18:00～ すみださわやかネット総会
- ◆5/27 (土) 16:30～18:00 自然流の会総会記念講演
「住宅建築から見た地球資源と地球環境」 金田正夫氏
自然流健康の家モデルハウス + Web
- ◆7/ 8 (土) 「住まいとまちづくりコープ30周年」記念イベント @板橋区立グリーンホール2階



各地でのイベントや行事情報、ホワイエの原稿も随時募集しています。

下記アドレスまで原稿をお寄せください！ foyer@shinken-tokyo.orgp.emai.ne.jp

Topics

「神宮外苑再開発事業の施行認可の撤回及び環境影響評価の継続審議に関する要請書」

3/27 現在で署名は700名を超え、建築・都市計画・造園関係で300名近い賛同を得ることができました。

引き続き署名は継続しています。お知り合いの専門家の方々にもお知らせください。

新建東京支部ホームページに署名フォームもあります(右QRからアクセスできます)。



2023年 第2回 幹事会記録

記録：柳澤泰博

日時：3月14日（火） 19:00～20:45 オンライン

出席者：石原・五十嵐・伊藤・岡田・杉山・高田・高本・千代崎・藤本・丸谷・山下・柳澤（12名）

【 議 題 】

1) 体制について確認

代表幹事：千代崎一夫・丸谷博男・杉山昇

事務局長：柳澤泰博

広報 ホワイエ編集担当 川田綾子・松木康高・柳澤泰博・馬越まゆみ

Web 編集 澤田大樹・五十嵐一博・山下千佳

総会時の第1回幹事会では代表幹事に千代崎さんと丸谷さんに互選で確認しました。

現在の東京支部の動き、特に相談活動を重視したいということも考慮して、杉山昇さんにも代表幹事をお願いし、本日の幹事会で確認をしました。

各担当は全体が進む中で分担するとし、広報部については日々の動きから決めました。

2) 当面の課題

・ホワイエの充実

「私と新建」「東京の魅力」 その他、広報については、幹事は原稿投稿などを積極的に行うことにしました。

・顔が見えるホームページ 幹事紹介

前期よりお願いしていますが、なかなかハードルが高いようです。

引き続き協力をしてほしい旨の依頼が別紙の提案で山下さんからありました。原稿期日 4/10

3) 「建築とまちづくり展—関東大震災から100年（仮）」7月9日

・関東大震災クラスでの都市の弱体化を調べてみる必要がある。そのうえで将来像を示す。

・従来のかたちでの「建築とまちづくり展」ではないものをする。現在の世界的に見ても「震災」と「戦争」の時代に、何のために日常を続けるかを考える必要がある。自然、生物との共存など

・3月も中旬で、実際に7月まで期間がないので、開催は難しいのではないかな。

フリー討議

・会員相互がどんな仕事や取組みをしているのかをもっと知り合う必要がある。その上で社会に対して職能人として、自分たちがどういう仕事をしているのか、何をやっているのか、戦っているのかをアピールする。まず仕事ができる環境をつくる。

・関東地域としてビジョンを持つ必要があるのではないかな。

・自分も興味があるテーマの企画から新建に入った。若い人に興味がないわけではない。

・最近各国の大使館巡りをしている。おもしろい！

次回幹事会 4月11日（基本毎月第二火曜）

地球温暖化について考える（第 34 回 2023 年 4 月号）

渡辺政利

IPCC が第 6 次統合評価報告書（AR6）を公表

気候変動に関する政府間パネル（IPCC * 下記）第 6 次統合評価報告書（AR6）が 3 月 20 日に発表されました。

この内容は TV や新聞各紙でもすぐさま大きなニュースとして取り上げられました。その他でも私の知る限りでは KIKO ネットワーク、CAN Japan、WWF ジャパンなどの環境保護団体がいっせいに声明を発表しています。このことは、国連で採択された気候変動対策の国際枠組みである「パリ協定」において「世界の平均気温上昇を産業改善と比較して 2℃より充分低く抑えさらに、1.5℃未満に抑える努力を追求」と決め、2021 年 11 月に開催された気候変動枠組み条約第 26 回締約国会議（COP26）で事実上の目標にするとしてきた平均気温上昇 1.5℃を、それが危機的になってきたこと、それにも関わらず岸田自民・公明党政府が、石炭火力新築を含む火力発電継続政策を進めていることへの危機感があるものと思われま

す。ここでは東京新聞 3 月 22 日の報道を少し長くなりますが紹介します。

「国連の気候変動に関する政府間パネル（IPCC）は二十日、今世紀末の気温上昇幅が 1.5℃を超（1）恐れが強まっており、この水準に抑えるには二〇三〇年に世界の二酸化炭素（CO₂）排出を現状から半減させる必要があるとの報告書を公表した。今後十年間の対策が人類や地球に『数千年にわたり影響を与える』と警告、各国に抜本的な対策を急ぐよう求めた。

地球温暖化の重大な被害を回避するため世界はパリ協定の下、産業革命前からの気温上昇を一・五度に抑えることを目指している。報告書は『気温は既に一・一度上昇しており、対策を強化しなければ今世紀末に最大三・四度の上昇になる』と予測した。

一・五度抑制のためには、一九年と比べた CO₂ 排出量を三〇年に 48%減、三五年に 65%減とするなど短期間で大幅削減が必要だと強調。メタンなど含む温室効果ガス全体でも三〇年に 43%減、三五年に 60%減が必要になるとした。」

「報告書は比較的 low cost で取り組める排出削減を例示。太陽光発電は年四〇億トンの以上

の削減が見込め、風力発電も四〇億トンに迫るなど電力部門で有効であるとした」

IPCC の報告についてはこれまでも何回かこのシリーズで触れてきましたが、今回発表の第 6 次統合評価報告書（AR6）の日本語訳は「概要」のみで本文はまだ後のことになるようです。「概要」は、A:現状と傾向 B:長期的な気候変動、リスク、及び応答 C:短期的な応答の三つで構成された 9 ページの文書になっていますが、新聞報道のような具体的な数字はほとんど含まれていませんし、膨大で緻密な内容を短文に凝集してまとめ上げていることや訳文であるため大変難解です。しかし、気候変動への危機感は強く伝わってきます。今回の報告を理解しておくことは重要なのでこれも少し長くなりますが、その特徴部分を私なりの理解の範囲で拾い上げてみたいと思います。

*気候変動に関する政府間パネル（IPCC）

（Intergovernmental Panel on Climate Change）

各国政府から推薦された専門家が集まってつくる地球温暖化についての科学研究・情報整理のための政府間機構。1988 年世界気象機関と国連環境計画により設立。学術的な機関であり、①自然科学的根拠（地球温暖化の現状や今後の見通し）②地域や生態系への影響③緩和策の三つのグループに分かれ報告書を作成する。この統合評価報告書を数年ごとに発表。この「評価報告書」は地球温暖化に関する世界中の専門家数千人の知見を集約したものと言われる。この活動が評価され、2007 年ノーベル平和賞を受賞。

AR6 統合報告書政策決定者向け要約

（A：現状と傾向）。

人間活動が主に温室効果ガスの排出を通して地球温暖化を引き起こしてきたことは疑う余地はなく、1850～1900 年を基準とした世界平均気温は 2011～2020 年に 1.1℃の温暖化に達したが、世界全体の温室効果ガスの排出量は増加し続けている。

大気、海洋、雪氷圏、及び生物圏に広範囲かつ急速な変化が起こっている。人為的な気候変

動は世界中の全ての地域において多くの気象と気候の極端現象に影響を及ぼし、自然と人々に対し広範な悪影響、損失と損害をもたらしている。この悪影響や損失・損害は、温室効果ガスの排出が少なく気候変動への寄与が最も少ない脆弱なコミュニティが不均衡に被っている。

適応の計画と実施（つまり温暖化への対策）は進展しているが、事態の進行に見合っていない。対策のための資金は特に発展途上国において不足しており、その実施を制約している。

温暖化緩和の政策及び法律は一貫して充実してきているが、2021年10月までに発表された各国の温暖化ガス対策では、温暖化は21世紀の間に1.5°Cを超える可能性が高く、温暖化を2°Cより低く抑えることがさらに困難になる。

(B: 長期的な気候変動、リスク、及び応答)

継続的な温室効果ガスの排出は更なる地球温暖化をもたらす、短期の内に1.5°Cに到達する。大幅で急速かつ持続的な温室効果ガス排出削減は、約20年以内に地球温暖化の識別可能な減速をもたらす（地球温暖化の識別可能な減速のためには20年かかるということ）、大気組成に識別可能な変化を数年以内にもたらさざるを得ない。

温暖化による将来への影響は今日までの予想や評価より大きくなり、長期的影響は今日観測されているものより数倍高くなる。気候変動による悪影響、損失・損害は、地球温暖化が進行するにつれて増大する。

将来変化の一部は不可避又は不可逆であるが、温室効果ガスの大幅で急速、かつ持続的削減によって抑制しうる。突発的・不可逆的な変化が起きる可能性は、地球温暖化が進むにつれて増大する。

実現可能で効果的な適応策（対策）は温暖化の進行に伴って制限され、効果が減少する。地球温暖化に伴い損失と損害が増加し、より多くの人間と自然のシステムが適応の限界に達する（大混乱が起きる）。こうした事態は柔軟かつ包摂的な計画と適応行動の実施によって回避できる。

地球温暖化を抑制するためにはCO₂排出量を正味ゼロにすることが必要である。温暖化を1.5°Cまたは2°Cに抑制できるかは、主にCO₂正味ゼロを達成するまでの累積炭素排出量と、こ

の10年の温室効果ガス排出量削減の水準によって決まる。削減対策を講じていない既存の化石燃料インフラによるCO₂排出量は、1.5°Cのための残余カーボンバジェットを超えると予測される。

温暖化を1.5°C又は2°Cに抑えるための多くの予想モデルは、ほとんどの場合即時の温暖化ガスの排出量削減と、CO₂のこの10年間の急速かつ大幅な削減を求めている。世界全体でのCO₂排出量正味ゼロの実現は、それぞれ2050年代初頭及び2070年代初頭に達成されなくてはならない。

温暖化が1.5°Cなど特定の水準を超えたとしても、世界全体で正味マイナスのCO₂排出量を実現し持続させることによって、温暖化を徐々に低減させることができるだろう。しかしこの場合はCO₂除去の追加的導入が必要になり、実現可能性や持続可能性に懸念がある。

(C: 短期的な応答)

気候変動は人間の幸福と惑星（つまり地球）の健康に対する脅威であり、全ての人々にとって住みやすく持続可能な将来を確保するための窓が急速に閉じている。環境にレジリエントな（影響の少ない）開発は、全ての人々にとって持続可能な開発を進展させ、脆弱な地域・部門・集団に向けた十分な資金源へのアクセスの改善、包摂的な政治や協調的な政策などの国際協力の強化によって可能となる。この10年間に行う選択や実施する対策は、現在から数千年先まで影響を持つ。

全ての人々にとって住みやすく持続可能な将来を確保するためには、全ての部門及びシステムにわたる急速かつ広範囲に及ぶ移行が必要である。

持続可能な開発にとって、気候変動への配慮が不可欠である。

効果的な気候行動は、政治、制度的枠組み、法律などや技術、資金へのアクセスの強化によって可能となる。明確な目標、複数の政策領域にわたる強調、包摂的なガバナンスのプロセスによって効果的な気候行動が促進される。

資金、技術、及び国際協力は、気候行動を加速させるための重大な成功要因である。気候目標が達成されるためには資金が何倍も必要である。技術革新システムの強化は技術や実践の広範な導入を加速化する鍵となる。

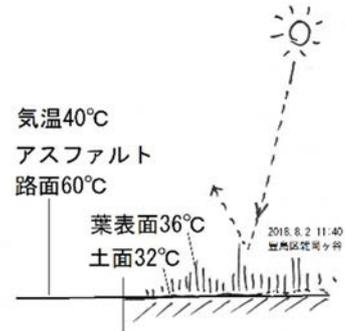
自然と正面から向き合ってみませんかー環境異変を回避するためにー

金田 正夫

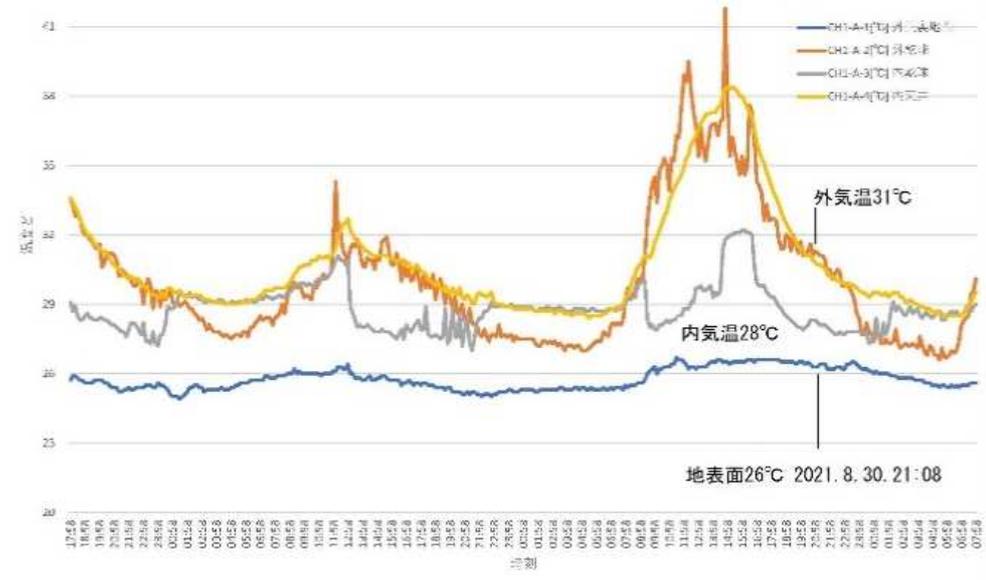
第8回

25 風3 都心でも熱帯夜を解消出来る

草が生えると外ブラインドの遮熱効果を葉が担うので日射がカットされ、葉の水分蒸発によっても熱が奪われ地面温度が気温より大幅に下がります。内外温度差通風が可能になります。



草下は外気温より 8°C位低い



熱帯夜の都市部でも草下は外気温より低くなる

26 風4 高い所と低い所に窓を取るほど風が通る

最も高くとれるのは屋根の最上部です。茅葺き屋根の最頂部に小屋根が載るのはよく見られますが換気扇も電気も全く使わずに風の流れをつくる工夫なのです。都市部の住居町屋においても同様の工夫がみられます。夏の夜は内外温度差も加わって心地よい風が家の中を通り抜けます。



町屋の越屋根 奈良県今井町旧米谷家



茅葺の越屋根 鳥取県門脇家



現代の越屋根 設計無垢里



27 風5 浴室に換気扇はいらない

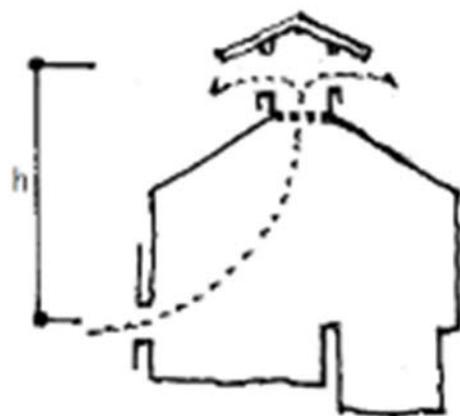
浴室に換気扇は必需品ですが戦前には有りませんでした。ではカビだらけだったのでしょうか。全く逆です。浴室天井の中央部を高く絞り上げて水蒸気が集まるようにして最頂部に格子のついた換気口を設けました。窓の上下差があるほど風は流れる原理を利用して外に排出しました。換気扇も電気も全く使いません。その結果カビの類はほとんど見当たらないきれいな天井面がつくられたのです。



埼玉県遠山家浴室 昭和11年築



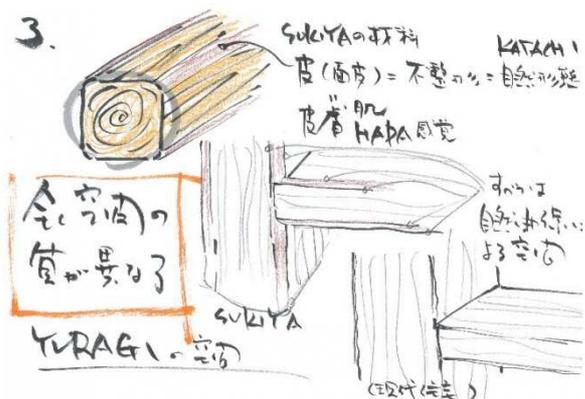
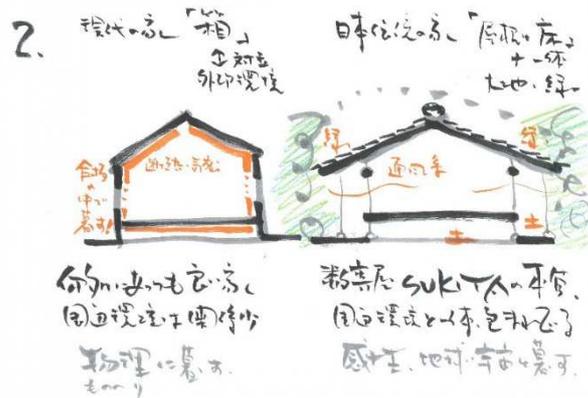
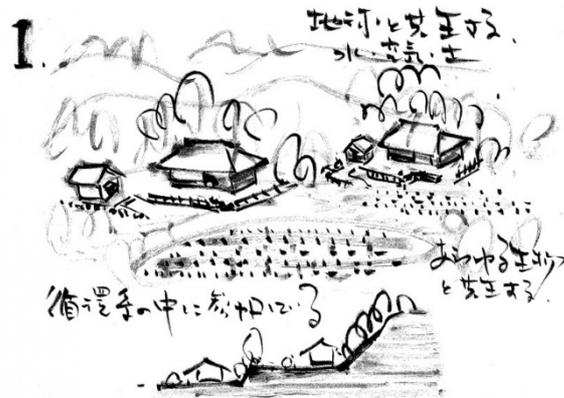
天井換気口室



日本建築概観「和風から現代疑洋風、その先は？」

丸谷博男(新建東京支部代表幹事、一般社団法人エコハウス研究会及び ARTISAN 日本代表理事)

- ・日本の家は木と土と紙できている。
- ・豊富な森林資源を背景に日本の建築が造られてきた
- ・地震王国のため、軽さと柔構造が耐震性を生み出してきた
- ・高温多湿の気候では調湿性と通風が快適と衛生を生み出してきた
- ・腰壁ではなく掃き出しの開口部が外部空間との一体化、庭との一体化を生み出した、さらに掃き出し窓は床面の衛生も維持してきた、マンションの衛生環境の悪さは床面の通風に課題を残している
- ・板の間ではなく畳の床だからこそ座敷が生まれ独自の生活文化が誕生した
- ・共に生産の場ではあったが、町屋という都市住宅の姿と、農家という郊外住宅の姿があり、それぞれに環境工学的な配慮がなされていた
- ・町屋と農家には耐火性能に問題があり、土蔵や土蔵造り、瓦屋根による耐火性能の改善がなされてきた
- ・貴族の暮らす寝殿造は寺院のように天井がなく、小屋組が見え吹き抜け空間であったため、冬の寒さには大変厳しいものがあつた、高床形式は南国の構造でありさらに厳しいものがあつた、床下通風は現代建築にも大きな課題を残したままになっている、暖房を必要とする地域には床下痛風は不適である
- ・縄文時代から庶民は竪穴住居に暮らし夏涼しく冬暖かい暮らしを継続していた
- ・寝殿造の建具は、突き出し窓形式の「蔀戸」と出入口には開戸である「妻戸」が使われていた
- ・寝殿造では、床は板であり、置き畳が使われた
- ・武家社会になると禅宗の影響を受けて書院造が生み出され、付書院、押板、違い棚が設えられ、床の間には畳が敷き詰められた、元は貴人の居所でもあつた
- ・書院造りでは、建具の改善がなされ、明り障子、遣り戸(引き戸)が誕生した
- ・部屋と部屋を繋ぐ欄間が工夫され、さらに天井意匠も定型化され、壁には漆喰が塗られ武家・寺の公的空間が設えられていった

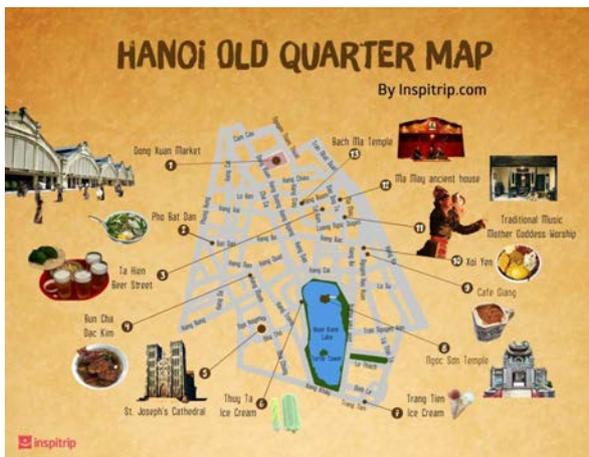


- ・室町時代後期には千利休が現れ、茶道を行う場として「草庵風茶室」を創作した、農家に見られる簡素、侘び、寂びが好まれ、「遊び」の場が室礼らえられた、江戸時代直前に作られた
- ・公的な場である書院造にも草庵茶室の表現が取り入れられ、数寄屋風書院が誕生する、八条の宮家の別荘として建てられた桂離宮はその最たるものである
- ・桂離宮は建築と庭園の一体化した珠玉の作例である、またその維持管理に優れた伝承、継承の有り様を見ることができる、現場の造作と材料を提供する産地形成を予見できる
- ・戦国大名が闊歩する時代では、戦いのための建築が誕生した、城とそれを囲む堀であり城下町である
- ・天守閣を守る大手門は渡櫓門形式で、その他拮橋門(はねばしもん)、枳形門、見張りのための櫓などが築かれた
- ・武家屋敷では玄関が定式化されたことも注目される、封建制度の発展と建築様式の発展とは一体化している
- ・神社仏閣も独自の発展を遂げて行った、耐震性への発達も進められた
- ・禅宗の影響は大きく、華奢で美しい舍利殿が造られた、この経緯は深く知りたいものである
- ・時代は遡るが、平家の時代には、平等院鳳凰堂、厳島神社などが浄土信仰を背景に造営され、日本人の美的表現が深められた
- ・明治維新を迎え、洋式建築が公共施設から造られ始め、住宅建築にもその影響が広がっていった
- ・廃仏毀釈など、明治新政府の文化政策には大きな問題があったことを日本史上では注意したい、その後天皇は仏教徒ではなくなり、神道だけに身を捧げることになり、太平洋戦争へと日本を導いてしまった、それは今もなぜか反省はなく維持されている、日本中に国分寺を造り国を納めていた時代ははるかに長い
- ・明治以後、洋館+和漢、和洋折衷の住宅が作られるようになる
- ・戦後復興住宅の生産の中で、住宅が商品化され、またファッション化され、伝統様式は一挙に崩壊し「デザイン」住宅が広がって行った、その後住宅景観はつくり得ないでいる
- ・省エネ対策により高気密高断熱住宅が推奨され、日本の住宅は壁に穴を開けて窓を築く箱型住宅として普及していった、環境と調和するのではなく、対峙する関係をつくるようになってしまった
- ・そして今があるのであり、日本建築が地球・環境と共生する姿を再び描き出す時代を迎えている
- ・また、それは日本人の感性が育まれてきた自然との一体的な関係を再評価する時代とも考えたい



壁は、塗り壁と建具によって構成する。塗りには土壁と漆喰がある。平安時代には和紙の襖壁も多用された。和室空間では、室礼が定型化されている。床の間、違棚・天地袋、そして書院である。生活用途には押入れ・天袋がある。これらの配置で室内空間は構成される。ごくシンプルな要素であり、全ては大工・建具・左官職人で作れる。置家具は指物による。

ハノイ市(1) 働く人たち



アジアニュースNo.04
(ベトナム中心) TN

ベトナムに行って何よりの楽しみは、ベトナムの異文化と圧倒的なエネルギーに接することです。JICA 関連の業務でほぼ1か月単位での現地活動ですが、土曜日には、時々

社内会議があるくらいで、日曜日はフリーです。この週末利用であちこちとまちなかを動き回ります。

また、ハノイ市には、中央省庁が集約されているので、滞在場所は、ほとんどハノイ市になります。



初めに大雑把なまちなかガイドを行います。(写真↑ OLD QUARTER MAP 最近の地図です)

- オールドクォーターやフレンチクォーターを含むホアンキエム湖周りのホアンキエム区です。
- ハノイ駅から西側に広がるドンダー区。
- その北に位置し、ホーチミン廟があるバイディン区。
- 南側には、中央省庁が多く存在するハイバーチュン区があります。



これらの4区が元々のハノイ市でしたが、今は大きな広がりを見せ拡大ハノイ市になっています。

(写真→我が家の壁に掛けてある地図。あまり見かけなくなった)

歩き回った成果を写真で紹介します。まずは食です。

(写真→ドラゴンフルーツの天秤棒を担いで売りさばきます。結構重い)

路上は商売エリアです。ほかの人に迷惑をかけない程度にはみ出して使っています。

(写真→カモ肉をさばいて売っています)

(写真→パン焼き機)

フランス統治の時代があったので、やや短めのフランスパンを作って売っています。サンドウィッチにするとバインミーとなります。

地元の生鮮市場です。

(写真→ホーム市場)

(写真→ホーム市場で鶏をさばきながら売っています)

女性が主役ですね。





働く人たちです。
 (写真←花輪をつくる人)
 旧市街でも路上の市場があります。

(写真→路上市場)
 もちろんちゃんとした店構えを持つ店舗や飲食店もあります。本格的なスーパーマーケットも。そちらは、やや高級ということでしょうか。こうした商売を見ていると物や人を運ぶのにバイクは欠かせない道具となっています。

(写真←通りの床屋さん)
 一定の決まりごとがあるようで、どこでもよいということではありません。

(写真→働く女性たち)
 ベトナムでもご老人もいます。これから高齢社会へと突入することになります。

(写真→湖で憩う人たち)
 そういえば、バイクタクシーもあり、「セーオム」と言っています。何度か利用しましたが、ぼったくりに気を付けた方が良いでしょう。乗った経験でいいますと道路には、意外と段差が多くあり、それをよけながらの運転なので、車との接触など危険も伴いますね。

食事風景です。ちゃんとしたレストランもありますが、なんとなく団らんという言葉がよみがえります。筆者は、ある路地奥で、おばあちゃんと孫娘でやっているホーのお店に通いました。身振り手振りです。

(写真←木陰の食事)
 お風呂屋さんによくある腰掛が用意されていて、和やかな雰囲気です。
 (写真→路地の食事)



住む人・使う人の立場で、
住まいづくり、まちづくりを
すすめています。



共同建替え「アリア鳩ヶ谷」

〒124-0001
東京都葛飾区小菅4-22-15
TEL : 03-3601-6841
FAX : 03-3601-6944
E-mail : zo-3@jade.dti.ne.jp
http://www.zo-3.info

株式会社 **象地域設計**

新建築家技術者集団 憲章

建築とまちづくりにたずさわる私たちは、国土を荒廃から守り、かつ環境破壊を許さず、人びとのねがう豊かな生活環境と高い文化を創造する目的をもつ。

私たちはこのことを認識し、行動するための目標をかかげ、ここに憲章を定める。

- 1 建築とまちづくりを、社会とのつながりの中でとらえよう。
- 2 地域に根ざした建築とまちづくりを、住む人使う人と協同してすすめよう。
- 3 建築とまちづくりの優れた伝統を継承し、理論や技術の発展と創造につとめよう。
- 4 人びとに支持される建築とまちづくりの活動をすすめ、専門性を確立しよう。
- 5 建築とまちづくりに関連する国内外の広い分野の人びととの交流をはかり、連帯を強めよう。
- 6 建築とまちづくり、生活と文化、自由のために平和を守ろう。

住み続けられる



株式会社
まちづくり研究所

〒150-0013
東京都渋谷区恵比寿 1-13-6 第二伊藤ビル 503
TEL : 03-5423-3470 FAX : 03-5423-3479

住む人に、環境に、優しく・・・
さらに美しさをお届けする

ルナファーマー

五感で味わう心地よい空間・・・

ルナファーマーは、環境保護先進国「ドイツ」で広く普及している塗装下地壁紙。通気性や透湿に優れ、結露やカビの発生を抑えます。紙のパターンと塗装色の組み合わせで、お部屋の演出は思いのまま。模様替えやメンテナンスもそのまま塗り重ねるだけでOK。(10回程度可能) 廃材もほとんど出ないので、環境に優しい材料です。



(輸入元)日本ルナファーマー(株)
東京都港区南青山2-9-3
青山JPビル 2階
TEL 03-5785-2750
(施工店)(有)ルナファーマー・テクノ
東京都港区高輪4-23-6
TEL 03-5792-5819

新協建設工業株式会社

平和であればこそ建築はよろこび

本社 台東区台東2-25-10
東東京支店 江戸川区篠崎町3-1-3
台東支店 (台東)台東区台東2-25-10
西東京支店 (多摩)日野市神明4-22-13
大阪支店 堺市寺地町東4-2-11
石川支店 金沢市法光寺町207-4
広島支店 広島市安佐南区相田6-1-7

TEL03-3836-2011 FAX03-3837-8450
TEL03-3678-7471 FAX03-3678-7472
TEL03-3836-2017 FAX03-3835-7380
TEL042-584-7508 FAX042-584-7581
TEL072-229-2873 FAX072-229-2874
TEL076-257-2535 FAX076-257-2570
TEL082-872-1727 FAX082-872-1728